

地方診療所における検査体制の課題検証と整備に関する研究

研究分担者 伊藤俊広 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
HIV/AIDS 包括医療センター室長

研究協力者 阿部憲介 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
薬剤部 研究教育主任

研究要旨

地方診療所における HIV 検査体制について仙台市の診療所を対象に preliminary 調査を行った。仙台市内の性感染症診療にかかわる機会が多いと考えられる泌尿器科・産科・婦人科標榜の一般診療所（全 95 施設）対してアンケート配布、希望施設に対して HIV 迅速検査キット・HIV 感染予防投薬スターターキットの配布をおこなった。現在返答待ちであり、今後調査範囲を拡大していく。

A.研究目的

本研究は HIV 感染者の早期診断のための検査拠点として、地域の医療機関（特に診療所）に焦点をあて、その検査体制を整備していくことを目的としている。

B.研究方法

①地方診療所における HIV 検査の現状と実施にあたっての問題点、②同じく地方診療所における HIV 暴露時対応の現状と対応についてのアンケート調査を行い、抽出された情報をもとに受検機会の拡大に伴い生じる課題を検討する。

今回、preliminary な調査対象として、仙台市における性感染症に関わる可能性の高いと思われる診療科標榜施設：泌尿器科（35 施設）、産科・婦人科（60 施設）に対しアンケートを配布した。さらに、針刺し事後時対応について、希望施設に対し、HIV 迅速検査キット・HIV 感染予防投薬スターターキットを配布した。

(倫理面への配慮)

特になし。

C.研究結果

図に示す内容のアンケートを配布し現在集計中である。

図

質問 1 HIV検査について
1) 診療科 (泌尿器科、産科、婦人科、肛門科、他 ())
2) 医師総数 (年)
3) 先生の性 (男性、女性)
4) 外来診療人数 (平均 約 人/日)
5) HIV抗体検査を実施したことがありますか?
ある方→8)以降へ、ない方→10)以降へ
6) 実施回数 (今まで全体で 回、 回/月、 回/年)
7) これまで受診したHIV陽性者数 (人)
8) HIV検査実施の理由 (HIV感染症を疑った理由) :複数回答可
イ) 性感染症関連所見 (性感染の存在、既往)、ロ) 性感染症疑い、ハ) HIV感染症の疑い、ニ) 患者等量、ホ) その他 ()
9) HIV検査を実施し、保険適用されたことがありますか (ある、ない)
10) 性感染症と診断された際、HIV検査の保険適応があることを知っていますか? (はい、いいえ)
11) 性感染症と診断されなくとも、その疑いの段階でHIV感染症を疑い検査した場合も保険適応があることを知っていますか? (はい、いいえ)
12) 患者がHIV検査を希望したら検査を実施しますか? (はい、いいえ)
13) 12)で「いいえ」の方に、
できない理由を教えてください。
()
質問 2 針刺しや、体液暴露などの事故時の対応について
1) 施設マニュアルがありますか? (ある、ない、不明)
針刺し事故時、抗HIV剤の2時間以内の服用とその後の28日間の継続服用によりHIV感染予防が可能です。
2) 2時間以内の抗HIV剤の服用は可能ですか? (可能、不可能、不明)
3) 富嶺県におけるHIV感染予防薬の供給システムとしてバイタルネットがあることを知っていますか?
(知っている、知らない)
御協力ありがとうございました。

D.考察

AIDS 動向調査では近年の年間新規 HIV/AIDS 報告数は 1400~1500 人と頭打ちであるが、AIDS 発症で診断される割合は 3 割で減少傾向がない。大都市における新規報告数の減少に反して地方においては新規感染者が増加しており、しかも AIDS 発症率が 40~50%で推移していることから診断の遅れが指摘されている。UNAIDS が目標にかかげる 2030 年における HIV 感染症の制圧に向けて各国が取り組んでいる 90-90-90 ケアカスケ

ードの達成に当たって、本邦では最初の 90 に焦点を当てた取り組みの重要性が指摘されており、HIV 検査の受検機会を増やしていくことが喫緊の課題と捉えられている。現状、本邦において HIV 検査を実施しようとするれば、保健所、医療機関、郵送検査、種々のイベント時検査などがある。献血時検査も検査機会を提供し、感染も判明しているが、陽性者への報告義務は有していない。医療機関において、HIV 検査がどの程度実施されているかについてデータは限られたものでしかなく、特に地方の一般医療機関（診療所：医院、クリニック）の実態は不明である。一方で拠点病院を受診する感染者の紹介元は医療機関が多いことから検査機会を増やし早期診断を進めていくために、一般医療機関における HIV 検査を患者側だけでなく、医療サイドからも拡大していくことが必要である。今回の preliminary な調査結果を参考に、今後地方診療所への調査を拡大していく予定である。

E. 結論

地方においては新規報告数は少ないが診断の遅れが指摘されている。HIV 早期診断のために一般医療機関も HIV 受検機会を提供する役割は大きい。今回仙台市における性感染症関連診療所を対象に調査を行い（現在調査中）、その結果を参考に今後調査対象診療科、地域を拡大していく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 金子典代、塩野徳史、内海眞、健山政男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態—2009 年調査と 2012 年調査の比較—：日本エイズ学会誌 19(1)、16-23、2017

2. 学会発表

- 1) 神尾咲留未、阿部憲介、近藤 旭、後藤達也、須藤美絵子、佐々木晃子、伊藤ひとみ、佐藤 功、伊藤俊広. テノホビルジソプロキシルフマル酸塩 (TDF) 関連腎機能障害と薬剤変更の効果に関する検討：第 31 回日本エイズ学会学術集会、東京、2017
- 2) 横幕能行、伊藤俊広、山本政弘、岡 慎一、豊島崇徳、田邊嘉也、渡邊珠代、白阪琢磨、藤井輝久、宇佐美雄司、池田和子、吉野宗宏、本田美和子、葛田衣重、小島賢一、内藤俊夫、安藤 稔. 拠点病院定期通院者の抗 HIV 療法による HIV 複製制御の達成度評価—我が国の HIV 感染症/エイズ診療体制整備の成果—：第 31 回日本エイズ学会学術集会、東京、2017
- 3) 岡崎玲子、蜂谷敦子、湯永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田 繁、小島洋子、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊島崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、古賀道子、林田庸総、岡 慎一、松田昌和、重見 麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久. 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向：第 31 回日本エイズ学会学術集会、東京、2017
- 4) 萩原 剛、四柳 宏、藤井輝久、遠藤知之、長尾 梓、三田英治、横幕能行、伊藤俊広、浮田雅人、渡邊珠代、四本美保子、鈴木隆史、天野景裕、福武勝幸. HIV 合併を含む血友病患者における C 型慢性肝炎の DAA 治療において保険適用外となる HCV ジェノタイプに対する治療の試み：第 31 回日本エイズ学会学術集会、東京、2017
- 5) 横幕能行、伊藤俊広、山本政弘、白阪琢磨、宇佐美雄司、吉野宗宏. HIV 感染症/エイズ診療に対する国立病院機構の貢献：第 71 回国立病院総合医学会、高松、2017

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

①特許取得

なし

②実用新案登録

なし

③その他

なし